



## 国際収支表の改訂について

神戸大学 経済経営研究所  
教授 北野 重人

日本の国際収支関連統計が、2014年1月から改訂されました。これは、2008年にIMFの公表した国際収支マニュアル第6版に準拠するためのものです。主な変更点は、菊池(2013)の分類に従うと、(1)主要項目の組み替え、(2)表記方法等の変更、(3)項目の拡充、(4)計上基準等の変更、(5)年次改訂制度の導入、の5つに分けられます。以上の分類の内、(3)から(5)はデータを扱う上では(特に貿易収支とサービス収支の計上替え等)とても重要ですが、このコラムでは、「国際金融」の授業の中で、説明に大きな変更を伴う(1)と(2)について説明したいと思います。また、この(1)と(2)の変更は、新聞等の国際金融関連の記事を読む際にも、頭に入れておいた方がよい大きな変更でもあります。本来は、国際収支について初歩的なところから解説すべきですが、紙数の制限もあり、以下では、学生時代「国際金融」の授業を受けた方を念頭に解説致します。

まず(1)についてですが、これまでは、「経常収支」、「資本収支」、「外貨準備増減」と大きく分類されていました(他に「誤差脱漏」という項目があり、実は数字的に無視できない大きさなのですが、概念的にはあまり重要でないため以下の説明では省略します)。これが改訂により、「経常収支」、「資本移転等収支」、「金融収支」という分類になりました。「資本移転等収支」は、名前が「資本収支」と似ていますが、「資本収支」の一項目であった「その他資本収支」を独立させたもので、同じものではないことに注意しましょう。「金融収支」は、「外貨準備増減」と(以前の「資本収支」内の項目にあった)「投資収支」とが統合されたものです。米国の国際金融の教科書には、以前から上記に従っているものがあります。そうした米国の教科書の日本語訳には、上記と異なる訳語を当てているものがありますので、混乱しないように注意しましょう。

次の大きな変更は、(2)表記方法等の変更です。さらに①符号表示の変更と②項目名の変更に分けられますが、特に①符号表示の変更が概念上大きな変更と思われるので、それについてのみ、このコラムでは説明します。これまでは、国際金融の授業で、

$$\text{経常収支} + \text{資本収支} + \text{外貨準備増減} = 0$$

これを変形して、

$$\text{経常収支} = -\text{資本収支} - \text{外貨準備増減}$$

となり、呼び方を変えると、

$$\text{経常黒字} = \text{資本流出超} + \text{外貨準備増加}$$

となると習ったと思います。「資本収支」の項目の「赤字(-)」は資本流出超を表しており、「外貨準備増減」の項目の「赤字(-)」は外貨準備の増加を意味していました。そして、この「資本流出超」と「外貨準備の増加」を加えたものが、対外債権と対外債務の差である対外純資産の「増加」と等しくなっています。つまり、これまでは、「資本収支の赤

字(－)」と「外貨準備増減の赤字(－)」が、「対外純資産の増加」を表していたわけです。これについては、奇異に思われるかもしれませんが、資金の流出入に着目し流入を黒字(+)、流出を赤字(－)としていたため、これまでそういった表記を取っていました。実は、この点がわかりにくいため、多くの教科書では説明に工夫をしています。たとえば、浜田先生の教科書では、「一見経常勘定の輸出入と資本収支の輸出入が逆転しているかのような感じを与えるが、資本輸入は、債務証券(I.O.U—I owe youの略)の輸出であると考え、資本輸出は債務証券の輸入と考えれば整合的であることがわかるであろう」と説明されています。

しかし改訂後は、金融収支について、資産・負債の増減に着目し、資産・負債の増加を「黒字(+)」と表記します。これに伴いネット収支の算出方法は、改訂前の「資産+負債」から「資産－負債」に変更になりました。したがってネット収支に関して、「黒字(+)」が対外純資産の増加、つまり流出超を意味することになります。それでは、さきほどの恒等式は、どのように変更されるか見てみましょう。(1)の主要項目の組み替えとも関連しますが、以下の記述に変わります。

$$\text{経常収支} + \text{資本移転等収支} - \text{金融収支} = 0$$

これを書き換えると、

$$\text{経常収支} + \text{資本移転等収支} = \text{金融収支}$$

となり、さらに呼び方を変えると、

$$\text{経常黒字} - \text{資本移転等流出超} = (\text{外貨準備増加を含む}) \text{資本流出超}$$

となります。ここで、改訂後の表記では、「金融収支」の「黒字(+)」が、外貨準備増加を含めた(ただし資本移転等流出超を差し引いた)資本流出超を表していることが重要な点です。そして、この「金融収支」の「黒字(+)」が「対外純資産の増加」と等しくなります。また、外貨準備についても、その項目の「黒字(+)」が「対外純資産の増加」を表しています。このように「金融収支」等の「黒字(+)」が対外純資産の増加を意味するという点で、概念的には以前より分かりやすくなったのではないかと思います。

以上、このコラムでは、これまでと「国際金融」の授業の中で教え方が変わるとと思われる部分をピックアップして説明しました。より網羅的な説明については、以下の文献をご覧ください。

(参考文献)

日本銀行ホームページ

[https://www.boj.or.jp/research/brp/ron\\_2013/ron131008a.htm/](https://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2013/ron131008a.htm/)

「国際収支関連統計の見直しについて」菊池 渉『ファイナンス』財務省 平成 25 年 11 月号 [http://www.mof.go.jp/public\\_relations/finance/201311d.pdf](http://www.mof.go.jp/public_relations/finance/201311d.pdf)

「改訂国際収支統計の見方」深尾光洋(2014)日本経済研究センター  
<http://www.icer.or.jp/column/fukao/index647.html>

『国際金融』浜田宏一 岩波書店 1996 年